



現在、企業におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）は重要なテーマとなっています。今回は、令和6年度「デジタルシティ松本推進企業認定制度」最高ランク三つ星認定、更に三つ星認定5社中特にDX推進の取り組みが高評価され最優秀賞を受賞された日穀製粉株式会社松本工場 DX推進担当者にお話を伺いました。「悩んでいることを明確にし、それが本当の悩みかを洗い出します。始めは洗い出しが手探りでもいいので取り掛かる事がスタートだと思います。」とお話していただきました。

1. DX推進に取り掛かり、まだ時間が浅いとの事で すが進捗を教えてください。

太田DX推進部長代理 課題を洗い出し、施策設定も順調に進んでいます。きっかけは、2022年に「地域中小企業データ活用BootTest」に参加したことです。DXの必要性に気づき、翌年には長野県工業技術総合センターのワークショップでDX立ち上げの方法を学びました。食品業界はIT化の遅れに危機感を覚え、DX推進を決意しました。今年、経営陣に提案し、4月にDX推進部を設立しました。食品業界全体でIT化が遅れており、特に属人化や技術伝承の面で課題を抱えていましたが、DXを通じてこれらを解決できると確信しています。展示会やセミナーを通じて得た知識を基に、課題の洗い出しを行い、業務改善を進めています。最初は手探りでしたが、徐々に成果が現れ、経営陣の支援を得ながらDXを推進しています。

2. 積極的な取り組みが、DX推進部設立の背景にあるのですね。

太田DX推進部長代理 昨年からデジタルシティ松本推進企業の認定にも挑戦しており、一度は断念しましたが、再挑戦することにしました。具体的には、そば製造部門のデータ管理がすべて紙であったため、これをDXの最初の課題として取り組みました。デジタル化だけでなく、業務の棚卸や業務プロセス全体を見直すことが必要だと考えています。設備投資やマニュアルの改善も並行して進めており、DXの取り組みは徐々に浸透してきています。現場との連携も重要です。各部署を回り、直接ヒアリングを行うことで、現場の理解を深め、スムーズにDXを進めることができています。課題の抽出とデジタル化の両立が成功のカギです。生産データの管理やオーダー処理の自動化を進めた結果、業務効率が大幅に向上しました。シーケンサーか

らのデータをタブレットでリアルタイムに確認できるようにし、手作業の負担を軽減しました。また、ジャストシステムのノーコードツール「JUST.DB」を導入し、従業員が自らアプリを作成できる環境を整えました。現場ニーズに応じた業務改善が迅速に行われています。

3. 人材育成とDX推進の関連性についてお聞かせください。

小山情報推進課長代理 人材育成はDX推進に欠かせません。DX委員会を立ち上げ、各部署から代表者を選出し23名で構成しています。ITリテラシーを高めるために、メンバーはeラーニングを活用し向上を目指しています。生産管理のデジタル化も進めており、作業指示書のペーパーレス化や機械の稼働状況のリアルタイム管理を構築しています。これにより、業務の効率化と従業員の負担軽減が期待できます。

4. DXがもたらす生産性向上の具体的な成果はありますか？

太田DX推進部長代理 DXによって作業時間の短縮や効率化が進みます。特にペーパーレス化や自動化により、生産フロー全体が大きく改善され、機械の稼働状況をリアルタイムで把握することで、異常対応が迅速になり、修理にかかる時間も大幅に短縮される見込みです。

5. トップダウンによるDX推進の重要性をどう考えますか？

太田DX推進部長代理 トップダウンでの推進が不可欠です。経営陣の強力なサポートがあってこそ、DXは成功します。私たちはDXを全社戦略として位置付け、全社で取り組んでいます。現場の声を反映させ、従業員と共に業務改善を進めています。デジタル技術を活用することで、業務効率が向上し、現場の協力を得ながらDXが進行しています。

6. コミュニケーションの重要性についてお聞かせください。

太田DX推進部長代理 コミュニケーションはDX推進の重要な要素です。現場と積極的に意見を交わし、課



工場設備IoT化デモの様子

題を共有することで、無駄なコストをかけずに進めることができます。DXは全社で進めるべきです。トップダウンでのリーダーシップと現場との密なコミュニケーションが、DX推進の成功につながっています。

7. DXの成功体験が、全社にどのように広がったのですか？

太田DX推進部長代理 小さな成功体験を積み重ね、他の部署にも広がっていききました。これにより、DXの効果を実感し、全社的な取り組みとして定着していきます。デジタル化が働き方に大きく影響しています。ITを活用しない企業は、デジタル化が進んでいる企業と比較され、人材が流出する可能性があります。DXを進めることで、働きやすい環境を提供し、人材の定着を図ることができます。

小山情報推進課長代理 働き方の変化に対応するため、DXを進めることで、職場環境を向上させ、人材確保と定着を目指しています。企業にとってどちらが良いかは、感覚的にスマホとガラケーのどちらを選ぶかのレベルかと思っています。

8. DX導入に不安を感じている企業へのアドバイスをお願いします。

太田DX推進部長代理 まずは自社の課題を整理し、ツール導入に頼らず、現状の設備やリソースを活用して解決策を見つけることが大切です。



組 織 名：日穀製粉株式会社 松本工場
所 在 地：長野県松本市南松本 2-6-52
代 表 者：代表取締役社長 小山 紀雄
事業内容：

- ・そば粉、そばミックス粉、小麦粉、米粉の製造および販売
- ・そば、小麦を原料とする食品の製造および販売
- ・長野県産そばの農産物検査
- ・倉庫業（営業倉庫、サイロ）
- ・外食事業（そば店）

URL <https://www.nikkoku.co.jp/>



デジタルシティ
松本推進認定企業

【DX推進に関するお問い合わせ】 松本商工会議所DX推進部 TEL：0263-32-5350 Mail：mccidx@mcci.or.jp